

研究協力をお願い

昭和大学薬学部薬剤疫学部門、東京健康長寿医療センターにおいて下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

DPC を使用した高齢者の急性期医療におけるアウトカムの影響要因の分析

1. 研究の対象および研究対象期間

本研究は、2020 年 4 月～2022 年 3 月の間に、東京健康長寿医療センターに入院された患者さんを対象とします。

2. 研究目的・方法

高齢の方の診療において、疾患やその症状に加え、加齢による身体的、精神的、または社会的な要因を考慮する必要があります。これら要因を精査するため、DPC（Diagnosis Procedure Combination）制度から得られる情報を活用しています。この情報により、高齢者に特有の医療課題、例えば多剤併用（ポリファーマシー）や入院中の ADL（Activities of Daily Living）低下に関する問題を、より客観的に評価することが可能となります。

研究では、DPC データを用いて、高齢者の入院後に発生する ADL 低下の予測因子や、ポリファーマシーによる有害事象のリスク因子を特定することを目指しています。これにより、高齢者に対する医療の質向上を目指し、今後の診療の指針に役立てることを期待しています。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから 2030 年 3 月 31 日までです。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では、診療報酬明細書のデータ、Diagnosis Procedure Combination（DPC）データ、診療情報（年齢、性別、病名、薬の処方、検査結果、バイタルサインなど）を利用させていただきます。またカルテの情報からは日常生活機能評価のデータを使用させていただきます。本研究は、日常診療から集積された既存の診療情報を二次的に利用するものであり、患者さんに新たな負担が生じることはございません。

5. 外部への試料・情報の提供

本研究で利用させて頂く個人情報等は、昭和大学 薬学部 薬剤疫学部門で厳重に管理・保護いたします。データ解析を行う際は昭和大学で特定の個人を識別することができない状態に加工した上で、解析を行います。プライバシーに係る個人情報が外部に漏洩することは一切ございません。なお、本研究の

成果に関しては、患者・国民の皆様や外部組織への公表、医学的な学会での発表や 専門的な雑誌での報告を行うことがあります。が、集団を記述した数値データとし、患者さん個人が 同定されるデータを公表することは一切ございません。

6. 研究組織

昭和大学 薬学部 社会健康薬学講座 薬剤疫学部門

助教 谷 拓朗

教授 今井 志乃ぶ

共同研究者

東京健康長寿医療センター

薬剤科 薬剤科長 島崎 良知

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学 薬学部 社会健康薬学講座 薬剤疫学部門

氏名：谷 拓朗

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8 3号館

電話番号：03-3784-8091